

シンポジウム

① 順天応人な医療を訪ねて：キューバの医療政策の事例など

(公財) 未来工学研究所 特別研究員

明治国際医療大学 客員教授

小野 直哉

「易経」に由来する「順天応人」には、「天の意志に従い」（自然の法則や道理を理解し、それに逆らわず、自然の摂理や宇宙の法則に従い生きること）、「人の願いに応える」（人々の幸福や健康を願い、それに応えるために努力すること）との意味合いがある。

医療における「順天応人」は、患者の病状や体質を理解し、適切な治療で自然治癒力を引き出し、病の治療だけでなく、心にも寄り添う、全人的医療の姿勢を表している。

キューバは、1990年代のソ連崩壊に伴う社会主義経済圏の消失と米国の経済封鎖の強化によるエネルギーと物資の不足から、「持続可能な社会」の構築を余儀なくされ、「持続可能な医療」の摸索が強いられた。その過程において医療政策の主軸を疾病予防と健康増進へ転換し、患者中心の包括的なケアの提供を目指した、プライマリ・ケアを基盤とする医療制度が構築され、今日、世界で最も整備されたプライマリ・ケア先進国として、国連や WHO から高い評価を得ている。しかし、キューバの医療政策や医療制度が従来の近代医療を中心とした一元的医療に自然伝統医療（伝統医療や補完医療）を導入し、ハイブリッド化された統合的医療体系（統合医療）により支えられていることは、日本では殆ど知られていない。また、日本とキューバでは、社会の高齢化と頻発する自然災害への対応が共通課題となっている。

キューバの医療政策には、患者を全人的に捉え、身体的・精神的・社会的側面を考慮した適切な治療を選択し、疾病予防や健康増進プログラムを提供し、地域住民の健康を支えるなど、「順天応人」に通じるものがある。本講演では、図らずしも「持続可能な社会」における「持続可能な医療」として世界で最も統合医療化されたキューバの医療政策や医療制度が、社会の高齢化における日常（平時）と災害（有事）の何れの医療サービスにおいても威力を発揮し、キューバ国民の健康維持に利活用されている現状を紹介する。